

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」について肯定的回答をした生徒の割合は75.3%であり、市や県の平均よりやや高くなっている。また「家で、自分で計画を立てて勉強している」や「家で、学校の授業の予習をしている」や「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」などの肯定的回答割合が市や県よりも高く、学習に自ら取り組む生徒が多い。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をした生徒の割合は、79.4%であり、学ぶ楽しさを感じている生徒が非常に多い。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」や「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に対する肯定的回答をした生徒の割合は、市や県よりも高く、授業中、自分の意見を発言できる生徒が多い。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に対する肯定的回答をした生徒は72.5%で、県よりも11ポイント以上高く、「自分には、よいところがあると思う」に対する肯定的回答をした生徒も78.9%と、県よりも5ポイント以上高くなっている。学校全体で自己肯定感を高める指導に努めている成果であると考えられる。

○「自分の行動や発言に自信を持っている」に対しては、前回の調査では市の平均を下回っていたが、本年度は、市や県を上回っている。道徳の授業や各教科での発表の機会を増やしたり、生徒のよさを伸ばす指導を推進してきた成果と考えられるので、今後も継続していく。

●ふだん、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲームや携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームなど)を2時間以上していると回答する生徒が42.7%、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上していると回答した生徒が24.8%となっている。市や県に比べるとゲームもメール等の時間も少なくなっているが、今後も情報モラル教育とあわせて携帯電話やスマートフォンの利用時間についての指導や、家での時間の有効活用の指導の継続に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを進んで表出する生徒の育成 ・ねらいを共有し、目的をもって学ぶ生徒の育成	・各教室にホワイトボードを据え置き利用することやChromebookのJamboardの積極的活用を推進する。 ・授業において『本時の目標』の提示や、ねらいに即した展開をする。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に対する肯定的割合が79.8%で、市や県よりもやや高い。 「授業で扱うノートに学習の目標を書いている」の問いに対する肯定的割合が93.6%で、前回の調査より15.8ポイント上昇した。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」に対する肯定的回答が68.3%で、市や県より10ポイント以上低くなっている。	振り返る活動の充実	授業の終わりや単元の最後に、学習課題に対する振り返りを行う時間を確保し、ノートやワークシートにまとめさせたり、発表させたりする活動を今後も継続して行う。